

令和七年度

滝川第二高等学校 入学考査 問題

(二次)

国語

(五十分・百点)

注意事項

- 1 問題は1ページから18ページまであります。
- 2 解答は、すべて解答用紙の枠内に記入しなさい。
- 3 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 4 受験番号を解答用紙と問題用紙に正しく記入しなさい。
- 5 「終了」の合図で筆記用具を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

受験番号

受験番号				

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数には、句読点その他の符号も一字として含みます)

日本特有の知識量偏重型の詰め込み教育が、[※]生命知能を弱体化させたという考えもあるかもしれません。詰め込み教育ではなく、思考力を鍛える学習を重視すべきだという議論は、^ア長らく続けられてきました。

実際に1980年代から「ゆとり教育」が導入され、教える内容を厳選し、「総合的な学習」で自ら学び自ら考える力を養うことを目指しました。^イ結局は、学力の低下が指摘されるようになり、2010年代には脱ゆとり教育の推進に^aイタりました。

ところがインターネットが普及すると、いつでも誰でも^b膨大な情報に容易にアクセスできるのだから、この時代に暗記は必要ない、詰め込み教育を見直すべきだという考えが再び盛り上がりつつあるようです。

①このような議論が繰り返される原因の一つに、^②「能動学習」と「発見学習」が混同されている可能性があります。

言うまでもないことですが、能動的に学ぶ姿勢がなければ、教育効果は高まりません。教師が一方的に話し、生徒が受動的に聞くだけの講義形式の学習は、それほど高い教育効果を発揮しません。

II 実験や演習など、能動的な体験学習が古くから教育には取

り込まれてきました。体験学習とは、^イまさに意識システムを活用した学習です。

最近では「アクティブ・ラーニング」という言葉を^ウしばしば耳にします。文部科学省中央教育審議会の用語集(2012年)によると、アクティブ・ラーニングとは「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、[※]グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である」と定義されています。これは、能動学習と同義です。アクティブ・ラーニングでは、グループ討論やグループワークが推奨されています。これも、自分の考えを他人に表出させるために、意識システムを活用しなければなりません。

このように、能動学習とは、意識システムをフル活用する学習方法と言えると筆者は考えています。(中略)

一方で発見学習のねらいは、生徒に試行錯誤を^cウナガし、答えを発見させて、自らの知識を築かせることです。まさに生命知能の発想そのものです。じつはアクティブ・ラーニングでも発見学習は推奨されています。発見学習の発想自体は新しいわけではなく、魅

力的な教育方法として長らく研究されてきました。古くは18世紀のフランスの哲学者ジャン・ジャック・ルソーが、教育では「時間を節約することではなく、ムダにすること」が重要であると述べています。

ところが③ 教育分野の長年の研究では、発見学習の教育的な価値は、ことごとく否定されてきたのです。これは、少し考えれば当然の結果です。学ぶべき単元が決まっているのであれば、しっかりと計画された教育が、行き当たりばったりの発見学習より優れた教育的効果を生むのは、火を見るより明らかです。

発見学習は能動学習の一種ですが、^Ⅰ決して能動学習と同義ではないのです。この点を理解しないと、ゆとり教育のような戦略が生まれてしまいます。学びのモチベーションを維持するために、^オ教育のほんの一部に発見学習を取り入れることは否定しません。しかし、大学生くらいまでは学ぶべきことがしっかりと決められているので、発見学習を重視しすぎて、時間を^d浪費する教育方法は正しい戦略ではありません。

一律の[※]教育カリキュラムが現在ほど整っていなかったルソーの時代には、発見学習は、現在よりも重要な教育方法だったと考えられます。同様に最先端の研究分野では、知識が体系化されていないので、発見学習は欠かせません。大学院生のように、十分に高度な知識とスキルを学んだ後、研究現場で生命知能を育むためには発見

学習が重要な戦略となります。したがって発見学習は、④として積極的に用いるべきと筆者は考えます。

知識の詰め込みが思考力低下を招くという考えは暴論です。また、ネットに容易にアクセスできるから、暗記の必要はないという考えも暴論です。^⑤ ネットで答えを見つけることは、検索であり思考ではありません。国語辞書によると、「思考」とは「経験や知識をもとにあれこれと頭を働かせること」とあります。知識がなければ、思考はできないということです。空っぽの脳は、思考力ゼロです。

思考力の源泉は、脳に詰め込まれている知識や経験です。ネットの情報には容易にアクセスできますが、思考の肥やしにするためには、情報を検索するだけでなく、その内容を理解したうえで、いったん脳に詰め込む必要があります。脳に詰め込まれた知識や経験は、必要に応じて意識の世界に現れます。

そして意識の世界では、さまざまな知識や経験が組み合わせられ、ときに新しい考えが創り出されるのです。思考とは意識システムを働かせることに他なりません。そして豊かな意識の世界を作るためには、豊かな知識や経験が欠かせないので。

【高橋^{たかはし} 宏知^{ひろかず} 『生命知能と人工知能』より】

AI時代の脳の使い方・育て方[【]より[】]

※ 生命知能：人間の脳に宿る知能のこと。

※ グループ・ワーク：グループで制作や討論などに取り組むこと。

※ 教育カリキュラム：教育内容を学習段階や目的に応じて配列したものである。

問一 —— 線部 a ～ d について、漢字はその読み方を平仮名で書き、カタカナは漢字に直しなさい。(漢字は楷書で正しく書くこと)

問二 空欄 I ・ II に当てはまることばを、次のア～カからそれぞれ一つずつ選び、その記号を書きなさい。(同じ記号は二度使えません)

- ア なぜなら
- イ そこで
- ウ あるいは
- エ ところで
- オ 要するに
- カ しかし

問三 —— 線部 ア～オ の中で、品詞が異なるものを一つ選び、その記号を書きなさい。また、その異なるものの品詞名を漢字で書きなさい。

問四 —— 線部①とありますが、どういうことですか。それを説明した次の文の a ・ b に当てはまることばを、
a は十三字、b は十六字で、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。

a を見直し、b という考えが、時代を経て再び持ち上がっているということ。

問五 — 線部②について、学級で話し合いをしました。次の話し合いの様子の、a b c に当てはまることばを、a は三十一字で本文中から探し、初めと終わりの五字を抜き出して書きなさい。b は十四字、c は十五字で、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。

山本 やまもと 文章を読むと、能動学習は生徒自ら学習することで、教育効果を高めることを目的にしているとわかるね。最近よく耳にするアクティブ・ラーニングも同じ意味のようだ。

平野 ひらの 「教育効果を高める」って具体的にどういうことなんだろう。
石田 いしだ アクティブ・ラーニングについての説明を読むとa を身につけることだと思う。

山本 古くからの能動学習の例として実験や演習といった体験学習が挙げられているけれど、そのような効果が確かにあると思う。

石田 アクティブ・ラーニングで推奨されているグループ討論やグループ・ワークはb ために意識を働かせるので、能動学習として効果的なんだね。

平野 でも、アクティブ・ラーニングに含まれる発見学習について、c 目的で、教育の中に一部だけ取り入れるという程度にするべきなんだね。

問六 — 線部③について、発見学習の教育的な価値が否定されてきたのはなぜだと考えられますか。その理由の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 発見学習の本来の目的は時間をかけて試行錯誤すること
で、結果として知識を得ることが軽視されているから。

イ 高い教育的効果が得られる能動学習と、行き当たりばったりの発見学習は正反対のものだと考えられるから。

ウ 発見学習では知識を築くまでの試行錯誤に時間を要するため、計画された教育を受けるよりも効果が低くなるから。

エ 18世紀には誤った教育方法が取られていたが、長年の研究によって発見学習に効果がないことが明らかになったから。

オ 試行錯誤させ、答えを発見させて知識を築かせるねらいがある発見学習では、生命知能を育むことができないから。

問七 空欄④に当てはまることばとして最も適切なものを、

次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 教育の総仕上げ
- イ 学習意欲の向上
- ウ 高度な知識の学習
- エ 過去の学習の復習
- オ 研究時間の節約

問八 —線部⑤について、この筆者の考えを具体的に説明したも

のとして最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア ささまざまな知識や経験を積み、脳に詰め込もうとする過程が思考であり、容易に知識を見つげられるネットの検索にはその過程がないため思考とはいえない。
- イ 知識や経験を組み合わせることで新しい考えを創り出せるが、ネットの世界にはばらばらな知識しかないため、正しい思考が存在しえない。
- ウ 思考とは知識や経験を取り出して意識システムを働かせることなので、ネットで答えを得るだけでは思考にならず、得た知識や経験を脳に蓄積する必要がある。
- エ 経験や知識をもとに意識システムを働かせることで思考が可能になるので、ネットを通して知識を得ようとすることは思考につながらない。
- オ ネットに容易にアクセスできるから暗記の必要はなく、ネットで情報を検索したうえで、内容を理解しようとするれば、思考力を高めることができる。

問九 この文章で書かれている内容に当てはまることとして適切な

ものを、次のア～カから二つ選び、その記号を書きなさい。

ア インターネットの普及によって暗記は必要ないという考えが盛り上がっている現在では、能動学習と体験学習が混同されている。

イ 発見学習は能動学習と同じ意味ではないことを理解しないと、ゆとり教育のような、学力を低下させうる戦略が生まれてしまう。

ウ 1980年代から導入されたゆとり教育では総合的な学習により自ら学び考える力を養うことが目指され、その結果として学力が向上した。

エ 教師が一方的に話し、生徒が受動的に聞くだけの講義形式の学習はそれほど高い教育効果を発揮しないため、知識を暗記させることが重要だ。

オ 暗記を重んじる教育を進めたことによって生命知能は明らかに弱体化したので、今後の教育においては能動学習を進めていくべきだ。

カ 脱ゆとり教育への反対意見が目立つようになったのは、時間間を問わず、誰もが多くの情報を容易に入手できるようになったからだ。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数に

は、句読点その他の符号も一字として含みます)

三十八歳の「僕」は東北新幹線の「やまびこ」で東京駅から故郷の岩手県・一ノ関駅いちのせきに向かっていている。福島県の郡山駅こおりやまに停車したとき、となりの席に女性がやってきた。

停車中の新幹線の中、荷物に道を塞がれる前にトイレに行っておけばよかったなと考えていると、窓の外のせわしない動きに気づいた。五十前後の見知らぬ男女が、ホームからこちらに向かって盛んに手を振っている。窓を叩かんばかりの勢いだ。誰だ？

「ちよつと、やめてよ」

ごく小さい、しかし鋭い声で隣席の女性が窓の外の二人を睨み、僕の顔を窺いながら追い払うように片手を払う。が、声は分厚い窓ガラスに阻まれ、ホームの二人はなおも手を振り続ける。

「もうっ」

女性が語気を強めた刹那、カッン、と細い指がコーヒーマグのカップに当たった。

「あ」

止める間もなくペーパーカップが倒れ、蓋の飲み口からコーヒーマグがこぼれた。

「ああつ、すいません！」

立ち上がるうとした女性はキャリーケースに膝をしたたか打ちつけ、弾かれるように座面に尻餅をついた。失態の連続に、見ているこちらまできまりが悪くなる。

「大丈夫ですよ」声がかすれてしまった。ずっと黙っていたせいだ。「たいして漏れてないですから」

テーブルにこぼれた量はわずかで、ミックスサンドに付いてきたウェットシートとポケットティッシュで簡単に拭き取れそうだ。スーツやシャツにも飛び散ってはいない。

女性が低頭しながらダウンジャケットのポケットからハンカチを取り出したときには、テーブルはすっかりきれいになっていた。

「あの、すみませんでした、本当に」

使う当てを失ったハンカチを手にしたまま、女性が小さくなって頭を下げる。あらためて見てみると、ずいぶん若い。二十歳を一つか二つ出たくらいだろうか。

「ああ、いえいえ。ええと、ご家族ですか？」窓の外を指さして振り向くと、そこには男女の姿ではなく後ろに流れる郡山の街並みが見えた。「ありゃ。出ちゃったか」

「ええ、出ちゃいましたね」女性が愛想笑いを浮かべて頷き、それから説明した。「^①両親です、さっきの。わざわざホームまで見送りに来なくていいって言ったんですけど、しつこくて」

ばつの悪さをごまかすためか、だいぶ饒舌じょうぜつになっているようだ。

「そうでしたか。郡山には、帰省か何かで？」

「いえ、仙台せんだいで就職するんです」

「あ、そうでしたか。おめでとうございます」

頭を下げると、相手もお辞儀を返してきた。

「どうもありがとうございます。でも、自分でも先が思いやられて。門出の日にいきなり人のコーヒーこぼすし、膝ぶつけるし、尻餅つくしの※猛打賞で」

渋い顔で発せられるほやきに、僕はつい笑ってしまった。

「いや、^②その様子なら新生活にもすぐに馴染なじめると思っていますよ」

「えっ、そうですか？」

相手の顔がぱつと輝く。ばつの悪さばかりでなく、親元を離れる心細さも彼女の口数を増やしているのだろう。

「ミスを内に溜ため込まないでその場で笑い話にできるんですから、そういう陽性の人はどこでも重宝されますよ」

余計な先輩風を吹かせてしまったあと、言ったあとでこちらのほうがばつが悪くなってしまった。しかし、※新卒らしい女性はスーツ姿の中年の話に感激してくれたらしい。

「なんか、ありがとうございます。やっていけそうな気がしてきました」

「^③それならよかったです。ところで、ご両親に連絡しなくて大丈夫

夫ですか？」

「はい？」

「いえ、心配してるんじゃないかと思って。カップが倒れてバタバタしているうちに発車しましたから」

「あ、そうですよね」

女性は携帯電話を取り出し、画面を操作しはじめた。

横合いから覗のぞき込むわけにもいかず、反対側に目を向ける。窓の外には、^a農閑期の平野が広がっているが、埼玉や栃木あたりとはちがって山が近く、山頂や谷筋には雪が多く残っている。源流からさほどの距離もないため、雪解け水を湛たえた川は細く流れも速い。東北の初春の景色だ。

^④十六年前にも、僕はこの季節のこの景色を窓から眺めていた。あれは、今はもう走っていない二階建て新幹線だっただろうか。狭い階段を上り下りした記憶がなんとなく残っているが、確信はない。列車の進行方向は今とは正反対で、空模様も今日のような薄曇りではなく、朝から冷たい雨が降っていた。

となりの女性は「しつこくて」と嘆いていたが、僕の就職のときに見送りはなかった。家を出たのが日中で、※店が営業中だったからだ。

その日、家族とどんな言葉を交わしたのかはもう覚えていない。大学生の頃も山形で一人暮らしをしていたので、住み慣れた故郷を

旅立つという^b 感慨もなければ、車内で一人感傷に浸ることもなかった。ただ、空の暗さと窓を横向きに流れる無数の雨粒にはだいたいぶげんなりさせられたが。

どこまで行っても降り続く雨は離職率の高さで知られるファミリーレストラン[※] チェーンでの日々を暗示しているようで、大手に就職できただけまだいいじゃないかと、いくら自分を励ましてみたところで気が晴れることはなかった。

事実、劣悪とっていい職場だった。中学生のときに憧れたウエイターのさらびやかな世界は、人件費の切り詰めと売上増という相反する目標が掲げられた勤務先には求めようもなかった。目の前の注文を捌くこと^{さば}に追われるあの店のキッチンや[※] バックヤードを見て憧れを抱く中学生など、一人として現れないだろう。

昇進すれば楽になれるはずだと、すさまじい長時間労働にも客からの理不尽なクレームにも耐え続けたが、それも二年が限界だった。

——何が「店継いでやろうか」だ！ 石の上にも三年っていうのに、たったの二年で会社辞めたお前に勤まると思ってるのか！

父の叱声が、耳の奥で聞こえた。あの声を思い出すと、四十路も迫った今もなお唇が震えてしまう。

よそう、昔の話だ。どうも今日は古い出来事ばかり思い出してしまう。きっと僕は、人生の中のそういう節目にいるのだろう。

あの職場の光景を目に浮かべたせいで、いよいよ気が滅入^{めい}ってきて

てしまった。馬鹿馬鹿しい。とうに終わったことに縛られてどうする。僕も今は、ホケン^c会社の社員じゃないか。三年どころか、この仕事は十四年も続いている。^⑤ 我ながらたいしたものじゃないか。「あの」

横合いから発せられた声に、実家の食卓の張りつめた空気は霧散した。

「はい？」

「母からで、『娘がご迷惑をおかけしました。クリーニング代を^dペ
ンション^ウしますので、お手数ですがご連絡先をお知らせください』
だそうです」

女性が、いくぶん硬い声で携帯電話に表示された文面を読み上げた。返信があつたらしい。

「ああ、じゃあ、『服も手もまったく汚れていないので、それには
及びません』と返信してあげてください」

「了解しました」

真面目くさった顔で頷き、せつせと入力する。何やら、配属され
たばかりの新人を指導しているような気分になってきた。

すぐに返信が来たようだ。律儀^{りちぎ}な母の娘が口元をほころばせる。

「『せめて、コーヒー代だけでも』だそうです」

^⑥ こちらの口元もほころぶ。

「陽性の人柄は、お母さんの遺伝かな？」

「どうでしょう。ただ、ちょっと変わってる親なのはまちがいないです」

「いい親御さんじゃないですか」
「伝えておきますね」

すかさず僕の言葉を送信する。この明るさの持ち主なら、就職先でもまちがいをなくうまくやっていけるだろう。

話しているうちに、列車はとなりの※福島駅に到着した。このやまびこ号は※白石蔵王駅を通過するので、次に停まるのは仙台駅だ。そこからは各駅に停車し、三つめが一ノ関。いよいよ近づいてきた。

短い停車時間ののちに、新幹線は静かに動きだした。水田と畑と果樹園が入り混じる、※物成のよさそうな福島盆地の景色が右から左へと流れる。

ここからまたしばらくトンネルなんだよな、と思ったとたんに視界がコンクリートの内壁に遮られた。福島と宮城の県境に差し掛かったのだろう。最高時速あたりまで加速した列車が、大小のトンネルを次々とくぐる。

その中でもとりわけ長いトンネルを抜けたところで、窓枠の小さいテーブルが光を反射した。山の向こうに青空が見える。晴れてきたようだ。

「晴れましたね」と伝えようかと隣席を窺い、^⑦僕は口をつぐんだ。怯えとも決意とも受け取れる光を目に宿した女性が、窓の外の空を

じっと見つめていたからだ。

【越谷^{こしがや} オサム『四角い光の連なりが』より】

※ 猛打賞：日本のプロ野球で一試合に三本以上のヒットを打つこと。ここでは比喻として用いている。

※ 新卒：その年に学校を卒業したばかりの人。

※ 店：「僕」の実家の写真店。

※ チェーン：ここでは、経営が同じレストランであること。

※ バックヤード：利用客が立ち入らない裏側の場所。

※ 福島駅：東北新幹線の下りで郡山駅の次の駅。

※ 白石蔵王駅：東北新幹線の下りで福島駅の次の駅、仙台駅の1つ前の駅。

※ 物成：田んぼや畑からの収穫。

問一 —— 線部 a ~ d について、漢字はその読み方を平仮名で書き、カタカナは漢字に直しなさい。(漢字は楷書で正しく書くこと)

問二 —— 線部の熟語と同じ組み立ての熟語を、次のア ~ オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 棄権 イ 柔軟 ウ 稚魚
エ 未明 オ 公立

問三 — 線部①について、このように話しているときの女性の様子を説明した次の文の a c に当てはまることばを、 a と b は五字、 c は九字で、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。

a を「僕」に見られたことに対する b を取り繕うだけでなく、仙台で就職することで生じる c を落착けようとする様子。

問四 — 線部②とありますが、どのような様子ですか。それを説明した次の文の に当てはまることばを、二十三字で本文中から探し、初めと終わりの五字を抜き出して書きなさい。

女性が 様子。

問五 — 線部③について、このように言ったときの「僕」の心情を説明した次の文の a b に当てはまることばを、 a は十五字、 b は七字で、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。

a ように思ったが、新しい環境にも b はずだという自信を女性に与えられたことがわかり、安心している。

問六 — 線部④について、生徒がグループで話し合いをしました。次の話し合いの様子、、、に当てはまることばを、は十三字、は十四字、は十一字で、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。

野村のむら 十六年前の「僕」と、隣席の女性は同じ状況にいるね。

そのうえ、十六年前と同じ季節の同じ景色を窓から眺めたことで、「僕」は十六年前のことを思い出したんだね。

石井いじい 「僕」はまず、二階建て新幹線に乗っていただろうことと、その日の天気を出しているね。が就職先での日々を暗示しているように感じたこともわかるね。

鈴木すずき 出車までの場面にそれぞれ注目すると、女性と違って、「僕」にはことも書かれていたよ。店が営業中

だったとはいえ、あとの場面もふまえると、女性の家族関係と、「僕」の家族関係は異なる印象を受けたよ。

野村 そうだね。私は、就職先に旅立つ日なのに、「僕」がげんなりしているだけで、感慨を覚えなかったということに意外さを感じただけで、どうしてかな。

石井 「僕」は大学生の頃に一人暮らしをしていて、という感覚が強くなかったことがわかるから、女性とは門出の日に対する思いが違ったのかもしれないね。

問七 — 線部⑤の「僕」の気持ちの説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア つらい仕事からは逃げ出してしまい、父の店を継げばよいと思っていた若い頃の自分の傲慢さを思い出して恥ずかしくなり、今の自分を顧みることで過去を忘れようとしている。

イ 今の仕事を長く続けられていることを実感し、以前の職場で理不尽なクレームをつけてきた客や自分を叱りつけてきた父を見返すことができたと誇らしい気持ちになっている。

ウ 以前の職場で受けた苦痛や、父との不和を思い返して嫌な気分になったが、冷静に十六年間で振り返ることのできる時期を迎えられたことに対しては前向きな気持ちになっている。

エ 過酷な職場で過ごした二年間に対する苦々しさや、父から叱責されたときの辛さがよみがえって悲観的になってきたので、自分を励ますことで気を取り直そうとしている。

オ 最初の仕事で挫折して父から強く責められた屈辱を今でも忘れられない自分が情けなくなり、現在の自分を肯定することのでかつての職場や父を許したいと感じている。

問八 — 線部⑥とありますが、「僕」がこのような様子になった

理由の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 女性とその母がともに明るい気質を有していることに心が和む思いを感じ、ほほえましい気持ちになったから。

イ 女性が律儀な母に育てられたことがわかり、女性が新しく入った会社で真面目に働く姿が想像できて安心したから。

ウ 女性が「僕」が気落ちしているのに気づき、和ませようとして大げさに対応していると気づいて嬉しくなったから。

エ 硬くなっていた女性の様子が母親のたわいない返事を受けて明るくなったことに気づいて、ほっとしたから。

オ 女性の性格が母親譲りのものだと感じ、娘を大切に育てた母の気持ちを想像してしみじみした思いになったから。

問九 — 線部⑦とありますが、このときの「僕」の気持ちの説明

として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 人生の岐路に立った女性から怯えや決意が読み取れたのと比べ、天候のよさに浮かれていた自分を恥じている。

イ 静かに窓の外の空を見ている女性の様子を見て、自分が励まさなくても彼女は成功するはずだと確信している。

ウ 女性の目から新生活への怯えや決意を感じ取ったため、たわいもない話はやめて、そっとうとしておこうと思っている。

エ 陽気に見えた女性が実際は新生活への不安を感じていたことに驚き、かつての自分の不安を思い出している。

オ 自分がわざわざ女性を励まさなくても、女性が自ら晴天に気づいて、先行きのよさを感じ取れるはずだと思っている。

問十 この文章について説明したものとして適切なものを、次のア

〜カから二つ選び、その記号を書きなさい。

ア 短く硬質な印象のある文を重ねることで、新生活への旅立ちに対する緊張感が現在の「僕」と女性との間に漂っていることを強調している。

イ 女性の表情についてだけでなく、声色についても描写することで、女性が抱いている気持ちを読者が想像しやすいようにしている。

ウ 女性の両親について「僕」の視点から「見知らぬ男女」ととらえることで、不穏な雰囲気を漂わせ、その後の展開を読者に予期させている。

エ 会話文を中心にした「僕」と女性の軽快でおだやかなやり取りや表情の描写によって、少しずつ互いの気持ちや立場を理解していく展開を描いている。

オ 具体的な地名や、「僕」の目に映る車外の光景を細かく描くことで、新幹線という特徴的な空間で展開される物語にリアリティを持たせている。

カ 「僕」が過去を振り返る場面において体言止めを用いて、十六年前の新幹線で「僕」が抱いていた複雑な気持ちを印象的なものにしてている。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数には、句読点その他の符号も一字として含みます)

※堀河院の御時、※勘解由次官明宗とて、いみじき笛吹きありけり。

ゆゆしき心おくれの人なり。院、笛聞こしめされむとて、召し

たりける時、帝の御前と思ふに、臆して、わななきて、え吹かざり

けり。

①本意なしとて、相知れりける。女房に②仰せられて、私に

※坪の辺りに呼びて、吹かせよ。われ、立ち聞かむと仰せありけれ

ば、月の夜、かたらひ契りて、吹かせけり。「女房の聞く」と思ふ

に、はばかりかたなくて思ふさまに吹きける。世にたくひなく、め

でたかりけり。

帝、感に堪へさせ給はず、「日ごろ、上手とは聞こしめしつれど

も、③かくほどまでは思しめさず。いとどこそめでたけれ」と仰せ

出されたるに、「さは、帝の聞こしめしけるよ」と、④たちまち

臆して、さわぎけるほどに、縁より落ちにけり。「安楽塩」とい

ふ異名を付きにけり。

昔、※秦舞陽が※始皇帝を※瞻奉りて、色変じ、身ふるひたり

けるは、逆心をつつみえざりける。⑤ゆゑなり。明宗、なににより

て、さしもあわてけると、をかし。

【十訓抄】より

※堀河院：堀河天皇。帝。

※勘解由次官明宗：国司の審査にあたる官職の副官だった明宗と
いう人物。

※女房：女官。

※私に：個人的に。

※坪：狭い庭。

※ 安楽塩…曲の名前。「安楽塩」と「あな、落縁」をかけている。

※ 秦舞陽…中国の戦国時代の刺客。始皇帝暗殺を企てた。

※ 始皇帝…中国の初代の皇帝。

※ 瞻…見る。

問一 ———線部①とありますが、これはどういうことですか。最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 明宗が、帝に自分の演奏を聞かせられないことを残念に思っていたということ。

イ 帝と明宗が、互いに顔を合わせることを気まずく感じているということ。

ウ 帝が、明宗の笛の演奏を聞くことができないのを残念に思っていたということ。

エ 帝が、明宗が自分の前では演奏が下手になることに不満を感じていたということ。

オ 明宗が、帝に自分の演奏を聞かせないといけないことを不満に感じていたということ。

問二 ———線部②・⑤を現代仮名遣いに改めて、すべて平仮名で書きなさい。

問三 ———線部③とありますが、この発言の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 明宗が演奏したほど、長い時間演奏をしてくれるとは思っていなかった。

イ 今までは誰のどんな演奏を聞いても、すばらしいとは思っていなかった。

ウ 明宗が緊張せずに、自由気ままに演奏してくれるとは思っていなかった。

エ 明宗の笛の腕前が、他に並ぶ人がいないほどすばらしいとは思っていなかった。

オ 明宗が演奏を通して表現したほど、女官への愛情が深いとは思っていなかった。

問四 ――線④は明宗のどのような様子を表していますか。最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 近くに帝がいることに気づかず、笛の演奏をしてしまい、騒々しい音で迷惑をかけたのではないかとあせっている。

イ 近くに女官しかいないと思つて気がねなく笛を演奏していたのに、帝が聞いていたことに気づいて混乱している。

ウ 帝がそばにいることを忘れて気ままに笛を演奏してしまい、ひどい演奏を帝に聞かせてしまったと恐縮している。

エ 女官に笛を聞かせることに夢中になったせいで、帝に聞かせる約束を忘れていたことに気づいて、恐怖に陥っている。

オ 見知らぬ相手にひそかに笛の演奏を聞かせる約束をしたはずが、その正体が帝であったことに気づいて驚いている。

問五 本文中には、帝から女官への発言のうち、「 」（かぎかっこ）がついていない発言箇所が一箇所あります。「 」（かぎかっこ）に入れる部分の初めと終わりの五字を、抜き出して書きなさい。ただし、「※」の記号は解答に含めません。

問六 本文の内容を要約した次の文の a b c に当てはまることばを、 a b c は四字、 b c は二字、 c は三字で、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。

明宗は「 a 」をする性格のせいで、帝の前で失態を見せってしまった。このような明宗の振る舞いについて、筆者は、帝に対する「 b 」があるわけでもないのにおびえていることに対して、「 c 」と感じている。

問七 本文中から読みとれる内容として適切なものを、次のア～カから二つ選び、その記号を書きなさい。

ア 明宗は月の夜に帝に帝に招待されたが、帝の前に出るのは恐れ多く、自ら帝のもとに姿を現そうとしなかった。

イ 明宗が帝から笛の腕前を称賛されたことから、笛吹きにとつて縁起のいい特別な名前を与えられた。

ウ 明宗は帝に演奏を聞かれて動揺し、縁から転げ落ちたことから、「安楽塩」と呼ばれるようになった。

エ 明宗は笛の奏者として有名だったが、その演奏を実際に聞いたことのある者はほとんどいなかった。

オ 最初は臆していた明宗も、帝にほめられたことを実感して大はしゃぎし、縁から庭に落ちてしまった。

カ 明宗が帝と相対するときの姿は、秦舞陽が暗殺を企てていた相手である始皇帝を見たときのようなだった。

問八 「十訓抄」は鎌倉時代に成立した作品ですが、同じ時代に成立した作品を、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 蜻蛉日記 かげろう

イ 雨月物語 うげつ

ウ 古今和歌集 こきんわかしゅう

エ 徒然草 つれづれぐさ

オ 日本永代蔵 にっぽんえいたいぞら

